

山形大学

取組名称:産学連携による研究開発人材育成プログラム

【取組概要】

高い技術力を持つものづくり企業群にとって、製品提案型企业への変貌が生き残りのための重要な課題になっている。このような課題に対応し、企業・学生・教員が現場における技術的・組織的課題に連携して取り組む「高度人材育成プログラム」を実施し、学生自らが課題を発見・解決出来る研究開発中核人材の育成を行う。本取り組みでは、特に、共同研究を展開している企業と大学が連携し、派遣前教育・前期派遣・中間指導・後期派遣・派遣後教育を通して、高度な実践型の研究開発人材を育成する。



【成果等】

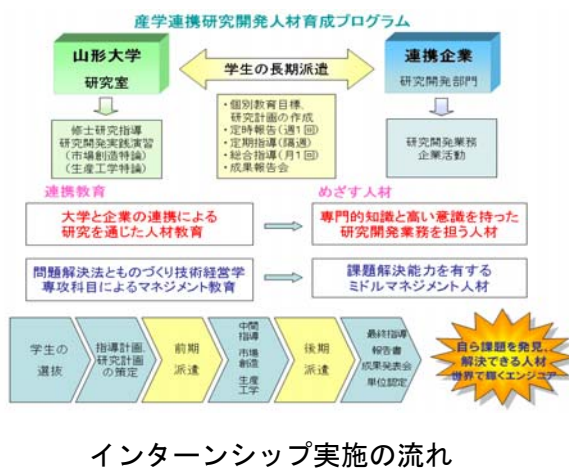
大学では、従来から企業との共同研究や社会連携に力を入れてきたが、学生の実践的教育の場としては、各研究室単位での活動にとどまっていた。本プログラムの実施により、長期間にわたり、技術レベルの高い企業現場での実践的教育の場が確保できた。さらに、参加学生にとっては、企業の人材ニーズを知ることができること、大学と企業との研究開発に対する相違点を認識できるなどの効果があった。また、企業にとっても、学生と長期にわたり研究を遂行することによって、今まで以上に産学間相互の意思疎通が容易となり、共同研究の推進速度も上がり、研究成果が大いに上がった。さらに、本事業を引き継ぐ教育システムを本学に構築することができた。

産学連携による実践型人材育成事業 ―長期インターンシップ・プログラム開発― 最終評価結果

大 学 名	山形大学
教育プロジェクト名称	産学連携による研究開発人材育成プログラム
事業責任者	大学院理工学研究科 研究科長 大場好弘

事業概要

高い技術力を持つものづくり企業群にとって、製品提案型企業への変貌が生き残りのための重要な課題になっている。このような課題に対応し、企業・学生・教員が現場における技術的・組織的課題に連携して取り組む「高度人材育成プログラム」を実施し、学生自らが課題を発見・解決出来る研究開発中核人材の育成を行う。本取り組みでは、特に、共同研究を展開している企業と大学が連携し、派遣前教育・前期派遣・中間指導・後期派遣・派遣後教育を通して、高度な実践型の研究開発人材を育成する。



最終評価結果

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

コメント

《優れた点》

- 本プログラムは地域企業との産学連携研究開発を活用して人材育成を図ろうとする試みである。すでに大学が共同研究を進めている企業との信頼関係をもとに、研究開発型高度人材育成プログラムを具体化させた。共同研究テーマと修士論文テーマのマッチングやカリキュラムの工夫により、大学・企業双方に効果がある施策を取り入れたことにより、毎年多くの実施実績の創出や、プロジェクト終了後も自立的に継続できる道筋を付けることにつながった。今後は、中小企業と連携した「ものづくり教育」のモデルケースを目指して頂きたい。
- 事後の取り組みについて数年にわたって持続させる仕組みが紹介されており、プログラムが定着していることを伺わせる。

《改善を要する点》

- 本プログラムが大学内でしっかり位置づけられることが必要であり、また企業側にとっても得られるメリットが見えることが望ましい。そのためには選ばれたテーマの具体的な意味と、背後にある大きな技術の流れが学生や関係者に理解されることが望ましい。
- 本プログラムによって大学で進められていることが、共同研究をしていない教員の指導を受けている学生に対しても何らかの建設的な影響、例えば産学連携に関する基盤的理解等を与える工夫が欲しい。